

序論：近代世界とキリスト教**第1講：啓蒙思想のインパクト****1：近代以前の宗教思想 - 神学的あるいは形而上学的 -**

西洋宗教思想の源泉としてのキリスト教とギリシア思想

これは、中世哲学では、神学と哲学、信仰と理性という問題において展開される。トマスは、自然神学と啓示神学という神学体系構想によって、この

問題を解決する(トマスの総合)

宇宙論的な神の存在証明(経験世界 神)

= 日常世界と宗教世界の統合

2：近代世界におけるキリスト教批判**1. 中世的宗教改革的キリスト教世界の崩壊の帰結**

キリスト教の普遍性あるいは合理性に対する根本的な問題提起

社会統合の原理がキリスト教から次第に分離し、キリスト教の地位が相対的に低下する。

ホッブズ, トーマス[英]Hobbes, Thomas 1588-1679 イギリスの哲学者,
政治思想家

2. 近代世界における弁証神学の課題

<文献1>

吉村正和 『フリーメイソン 西欧神秘主義の変容』(講談社現代新書)

大津真作 『啓蒙主義の辺境への旅』(世界思想社)

安酸敏眞 『レッシングとドイツ啓蒙 - レッシング宗教哲学の研究 - 』(創文社)

芦名定道 『テリッヒと弁証神学の挑戦』(創文社)

村上陽一郎・細谷昌志編 『宗教 - その原初とあらわれ』(ミネルヴァ書房)

第2講：宗教学と宗教本質論**1：理神論とカント****1 - 1：ドイツ古典哲学の宗教論****3. ドイツ古典哲学とは**

啓蒙主義の影響とドイツにおける独特の展開

4. Hermann Nohl, Die deutsche Bewegung von 1770-1830

1. Aufklärung 2. Sturm und Drang 3. Kants Philosophie-Klassik(Goethe) 4. Romantik 5. Hegel

1 - 2：啓蒙主義の宗教論 - 理神論(Deism)**5. ハーバード, エドワード[英]Herbert, Edward 1581-1648**

チャーベリーのハーバード(Herbert of Cherbury)

『真理について』(1624)

6. ロック, ジョン[英]Locke, John 1632-1704

経験論哲学、宗教的寛容や政教分離、『キリスト教の合理性』1695、
広教主義

7. トーランド, ジョン[英]Toland, John 1670-1722

『非神秘的なキリスト教』(Christianity not mysterious, 1695)

『汎神論大全』(Pantheisticon, 1720)

8. 啓蒙的自律的個人とその自由 人間理性を他律的にしぼる権威

9. カント『単なる理性の限界内の宗教』

Die Religion innerhalb der Grenzen der bloßen Vernunft 1793

神への道は、理論理性から実践理性へ。宗教の倫理化・内面化

10. ロマン主義的反動(民族、神話、美、感情)

11. ヘーゲルの総合(近代ドイツ哲学による総合の頂点)

< 文献 >

1. コプルストン 『ドイツ観念論の哲学』(以文社)

2. ティリッヒ 『ティリッヒ著作集別巻3』(白水社)

3. シュルツ 『近代形而上学の神』(早稲田大学出版部)

4. レーヴィット 『ヘーゲルからニーチェへ』(岩波書店)

5. カント 『宗教論』(思想社)

6. シュライエルマッハー 『宗教論』(岩波文庫、筑摩書房)

7. イェシュケ 『ヘーゲルの宗教哲学』(早稲田大学出版部)

5. 西谷啓治 「宗教哲学 - - 研究入門 - -」(『西谷啓治著作集第六巻』創文社)

6. 大橋良介 『絶対者のゆくえ』(ミネルヴァ書房)

7. 田丸徳善 「ドイツ観念論と宗教の問題」(『講座ドイツ観念論』第六巻・弘文堂)

8. 大峰 顕編『神と無』(『叢書ドイツ観念論との対話』[5] ミネルヴァ書房)